

2022年3月期第1四半期決算説明資料

株式会社ゼネラル・オイスター
(3224)



2021年8月13日



1. 2022年3月期第1四半期 決算トピックス



1

コスト削減効果と、時短協力金の下支えもあり、最終損益では黒字化を達成

3回目の緊急事態宣言などで、営業時間の短縮・休業、酒類提供禁止等の影響により、売上の戻りは限定的（対前年+78.2%）となったが、前期から取り組んできたコスト削減効果と時短協力金の下支えで、最終損益は45百万円の黒字化。

2

新株予約権の行使（増資）と黒字化により2021年6月末時点で、債務超過を解消

新株予約権の行使（約2.2億円の増資）と黒字化（約0.5億円）により、2021年6月末時点で債務超過を解消（約1.4億円の資産超過）。引き続き、損益改善の推進と財務基盤の強化に取り組む。

3

新たな収益源の確保として、加工事業での水産加工品の受託業務を開始

総合商社との間で、加工事業での水産加工品の受託業務を開始。2021年5月よりスタートし、対前年で+11百万円の利益が改善し、新たな収益源の確保に向けても大きな進展。

4

「EC通販事業」が着実に成長。新たな販路拡大として期待

巣ごもり需要の取り込みにより「EC通販事業」が急拡大。まだ小規模ながら、新たな販路確立に向けて大きな弾み。

5

海外輸出も順調に拡大し、過去最高の売上を記録

海外向けの輸出はまだ小規模ながら、香港市場を中心として順調に拡大。2022年3月期第1Qは、四半期ベースでの過去最高を更新。

連結損益計算書概要

休業・時短営業要請と酒類提供制限の影響で、売上の戻りは限定的となったが、コストコントロールの効果に加え、時短協力金等の下支えもあり、第1Qは最終黒字を達成。

| (百万円) | 2020年3月期 第1四半期 (参考) | 2021年3月期 第1四半期 | 2022年3月期 第1四半期 | 増減額 | ポイント |
|---------------------|---------------------------|-------------------|-------------------|------------------|--|
| 売上高 | 803 | 231 | 412 | +181 (+78.2%) | 店舗事業、卸売事とも、 コロナ禍前（2020年3 月期1Q）と比べて戻り は限定的 |
| 売上総利益 | 523 | 136 | 265 | +128 (+93.9%) | |
| 販管費 | 594 | 350 | 416 | +66 (+18.9%) | コスト抑制の効果もあり、 経費は対前年+ 18.9%の増加に抑える 事ができた。 |
| 営業利益 | △71 | △213 | △151 | +62 | 増収となるも、営業利 益では赤字継続 |
| 経常利益 | △70 | △212 | △151 | +61 | |
| 特別利益 | - | - | 201 | +201 | 政府からの時短協力金 など |
| 特別損失 | - | - | - | - | |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | △63 | △206 | 45 | +251 | 最終損益は黒字化 |

貸借対照表概要

第1Qにおいて約2.2億円の増資（新株予約権の行使）が完了。最終黒字化と併せて、債務超過を解消（約1.4億円の資産超過）。引き続き、財務基盤の強化を図る。

（百万円）

| 資産の部 | 2021年3月期 期末 | 2022年3月期 第1四半期 | 負債・純資産の部 | 2021年3月期 期末 | 2022年3月期 第1四半期 |
|-------------|----------------|-------------------|---------------------|----------------|-------------------|
| 流動資産 | 771 | 998 | 流動負債 | 636 | 595 |
| 現金及び預金 | 541 | 679 | 支払手形・買掛金 | 73 | 50 |
| 売掛金 | 146 | 99 | 短期借入金 ^{*1} | 336 | 341 |
| 棚卸資産 | 26 | 24 | その他 | 226 | 204 |
| その他 | 58 | 196 | 固定負債 | 997 | 988 |
| 固定資産 | 745 | 734 | 長期借入金 ^{*2} | 577 | 570 |
| 有形固定資産 | 520 | 509 | その他 | 420 | 418 |
| 無形固定資産 | 0 | 0 | 負債合計 | 1,633 | 1,584 |
| 投資その他の資産 | 225 | 225 | 純資産合計 | △116 | 148 |
| 資産合計 | 1,516 | 1,732 | 負債純資産合計 | 1,516 | 1,732 |

*1．1年内返済予定の長期借入金及び1年以内に償還予定の社債を含む

*2．社債を含む

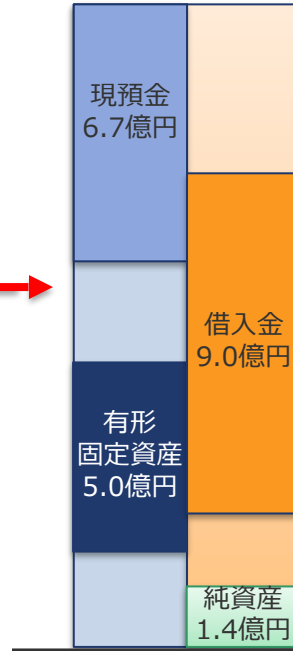
純資産の状況

新株予約権の行使による増資（約2.2億円）と最終黒字化（約0.4億円）により、2021年6月末時点で債務超過を解消（約1.4億円の資産超過）。引き続き、損益改善の推進と、財務基盤の強化に取り組む。

〔 2021年3月末
連結貸借対照表 〕



〔 2021年6月末
連結貸借対照表 〕



① 2021年4月～6月の
新株予約権による増資

第8回新株予約権の4月1日～6月末日の行使状況

行使数：2,630個（26.3万株）
調達額：221百万円

② 2021年4月～6月の
期間損益

当期利益 45百万円

期間損益
② 0.4億円
増資
① 2.2億円

* 大幅に簡略化してイメージを記載

引き続き、資本政策の検討と損益改善の推進により、財務基盤の強化に取り組む

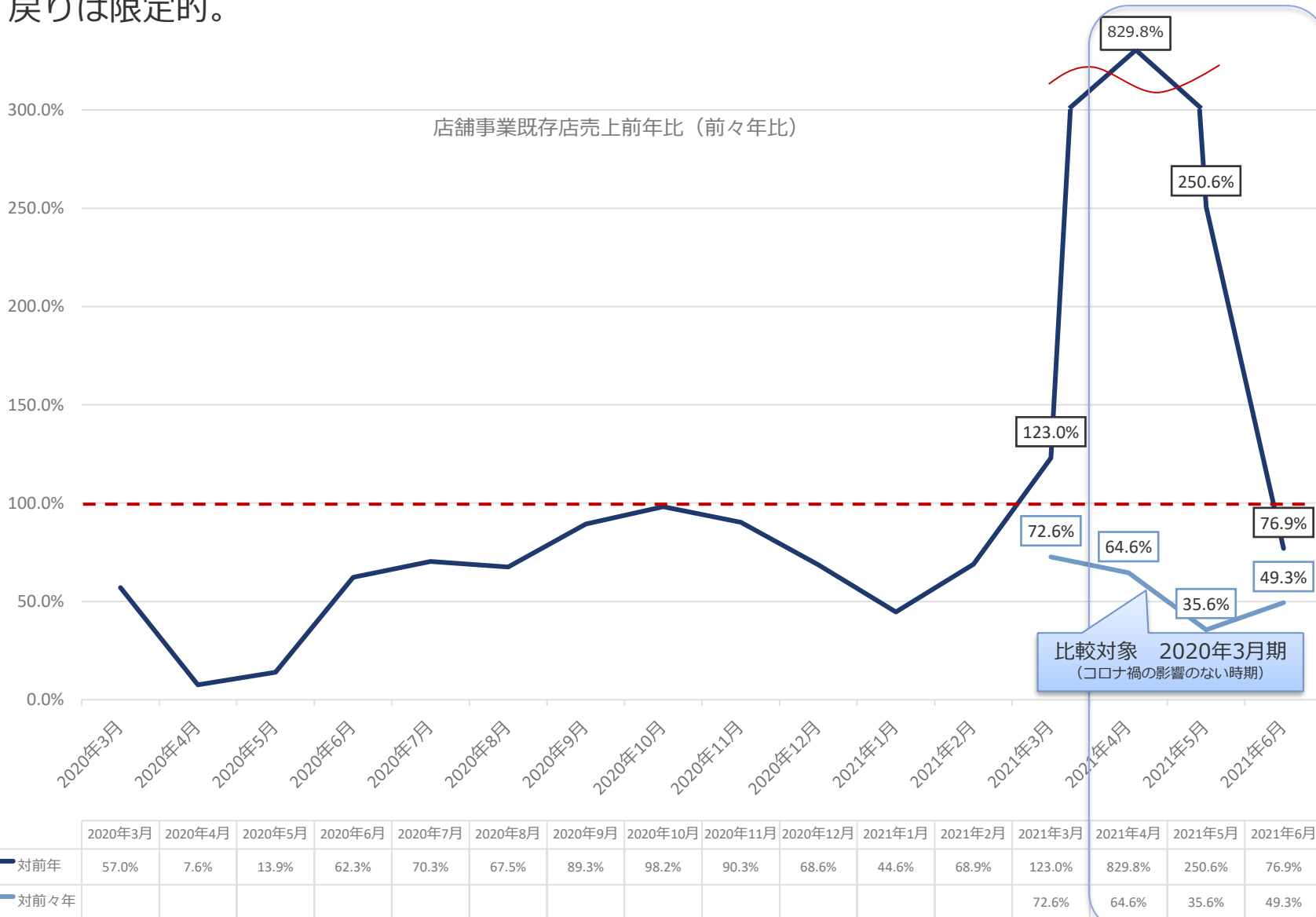
セグメント別業績概況

「卸売事業」は黒字転換。「店舗事業」と「加工事業」は損失幅が縮小。「その他」（EC通販、海外卸売等）は、まだ小規模ながら増収増益。

| (百万円) | | 2020年3月期 第1四半期 (参考) | 2021年3月期 第1四半期 | 2022年3月期 第1四半期 | 前年同期比 (%) | ポイント |
|--|------|------------------------|-------------------|-------------------|--------------|--|
| 店舗事業 オイスターバーレ レストランでの飲食 サービス | 売上高 | 736 | 211 | 360 | +70.6 | 休業・時短営業要請と酒類提供制限の影響で、売上の戻りは限定的となったが、コストコントロールで損失幅は縮小 |
| | 営業利益 | 50 | △123 | △ 68 | — | |
| 卸売事業 生牡蠣や牡蠣の加工品の国内外販卸 売り | 売上高 | 60 | 17 | 23 | +40.2 | 取引先もコロナ禍の影響（休業や営業時間短縮）を受けており、取引高の戻りも限定的であったが、黒字へ転換 |
| | 営業利益 | 24 | △0.3 | 4 | — | |
| 加工事業 岩手大槌工場での魚介類の加工事業 | 売上高 | 54 | 2 | 17 | +728.5% | 新規事業がスタートし、損失が改善。今後の収益源として、大きな弾み。 |
| | 営業利益 | △34 | △23 | △ 12 | — | |
| その他 EC通販、海外卸売事業など | 売上高 | 8 | 4 | 15 | +321.5% | EC通販、海外卸売とも順調に拡大。 |
| | 営業利益 | 6 | 1 | 3 | +128.1% | |
| 調整額 浄化センター、陸上養殖、本社など | 売上高 | △54 | △2 | △ 4 | — | |
| | 営業利益 | △116 | △68 | △ 79 | — | |
| 連結財務諸表計上額 | 売上高 | 803 | 232 | 413 | +78.2% | |
| | 営業利益 | △71 | △213 | △ 151 | — | |

【店舗事業】 既存店売上高 前年比（前々年比）

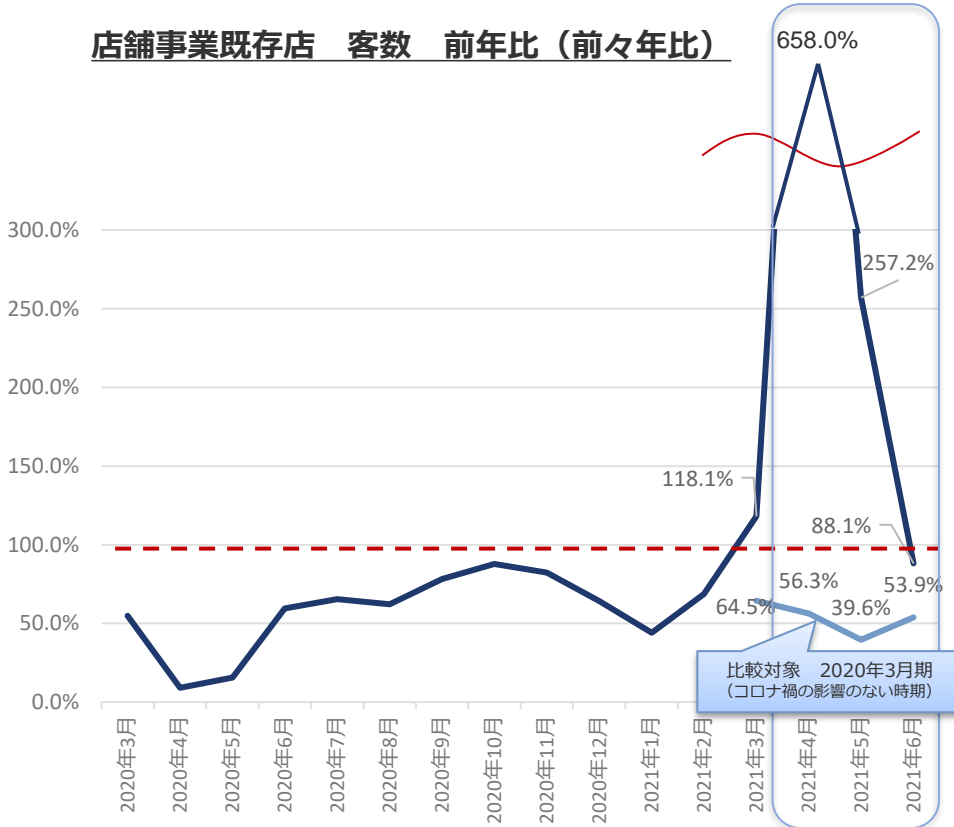
前年と比較では売上は大きく戻したが、コロナ禍の影響のない、前々年の比較では、戻りは限定的。



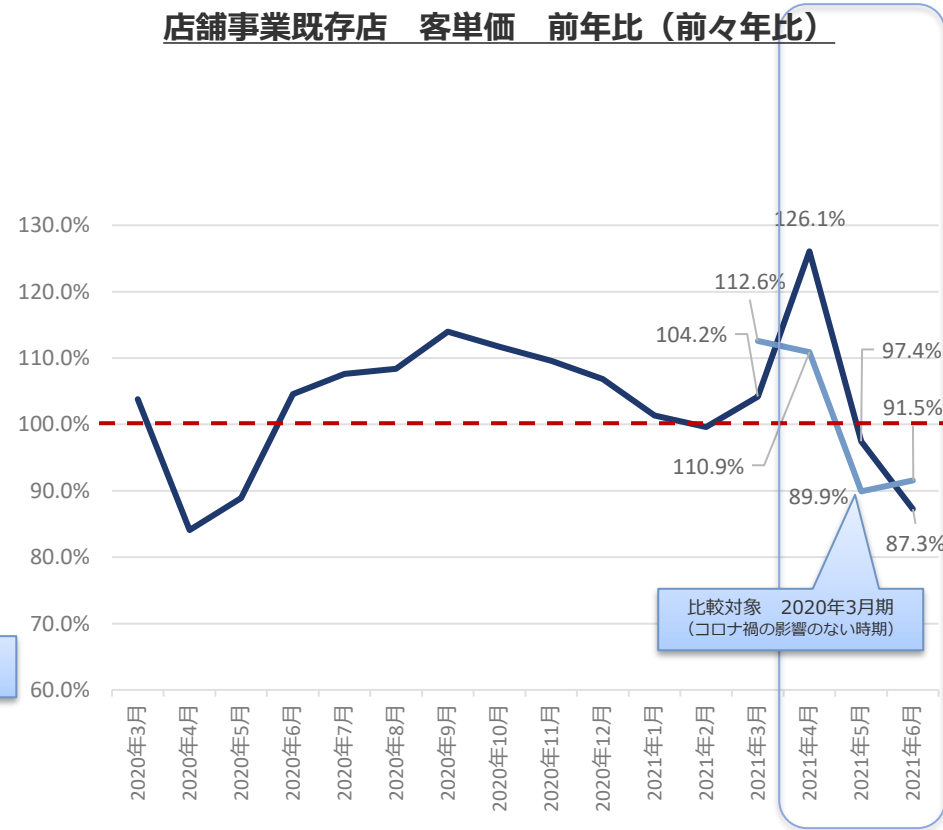
【店舗事業】 既存店客数・客単価（前年比）（前々年比） General Oyster

営業時間の短縮等によりディナー帯の客数が大きく落ち込む一方、ランチの戦略を変え、高単価化を推進し、既存店の客単価全体の底上げに貢献。

店舗事業既存店 客数 前年比（前々年比）



店舗事業既存店 客単価 前年比（前々年比）

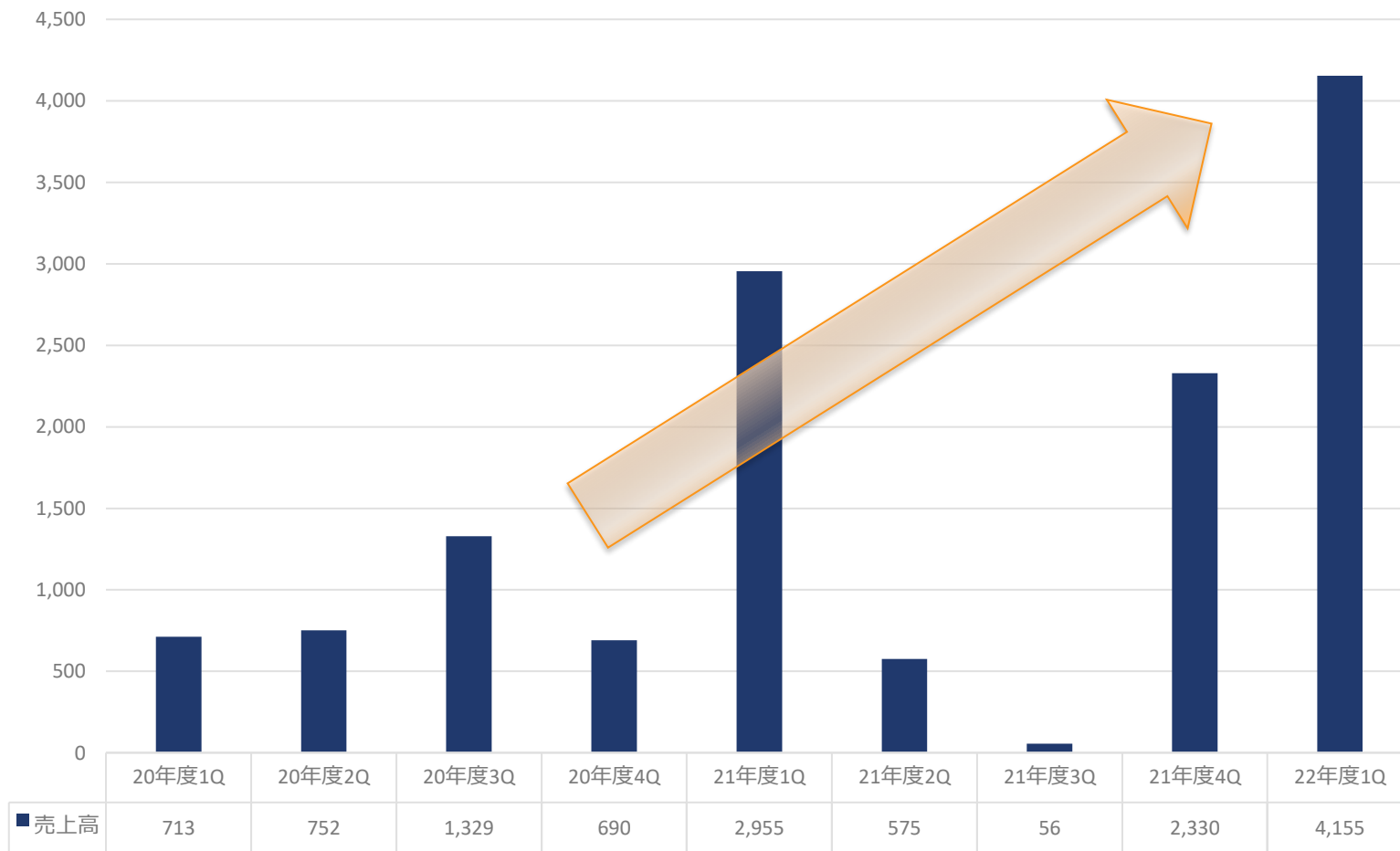


【海外輸出について】

海外向けの輸出はまだ小規模ながら、香港市場を中心として順調に拡大。
2022年3月期第1Qは、四半期ベースで過去最高を更新。

(単位：千円)

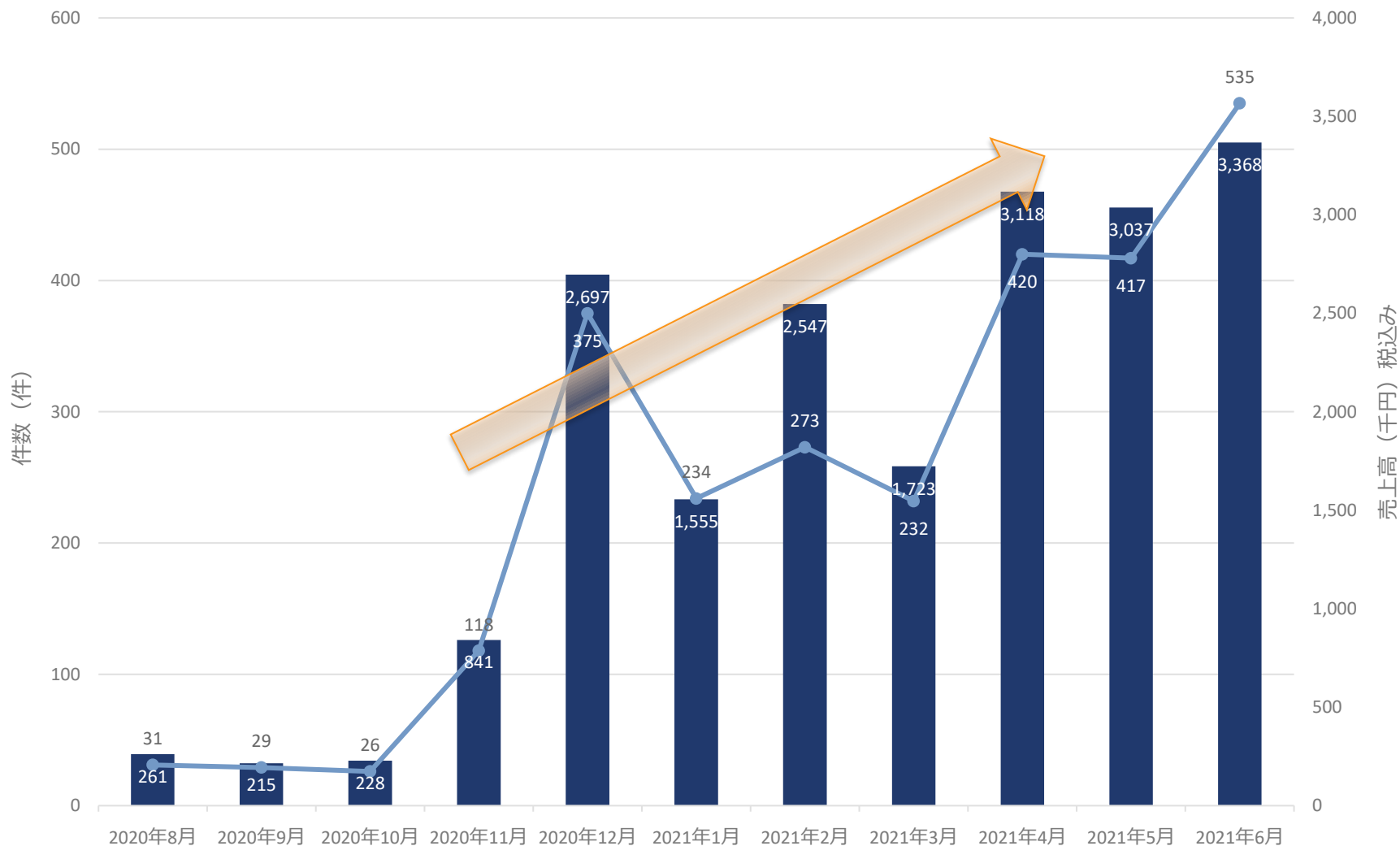
海外輸出売上高



【EC通販サイトについて】

金額的にはまだ小さいものの、受注件数、金額とも順調に拡大。コロナ禍における販売チャネルの多角化により、今後の収益力の拡大を目指す。

EC通販事業（受注ベース）



2. 今後の取り組みについて



2022年3月期のコロナ禍の経営戦略の見込み

コロナ禍に臨機応変に対応しつつ、再成長へ向けた取り組み

| 方針 | 重点施策 | 達成見込み | |
|--------------------|-----------------------|-------|--|
| コロナ禍で継続する『守りの取り組み』 | コストコントロールの徹底 | ◎ | 前期に引き続き、推進 |
| 再成長に向けた『攻めの取り組み』 | 「EC通販の強化」など販売チャネルの多角化 | ○ | 前期に引き続き、推進 |
| | 店舗事業の収益拡大 | △ | Withコロナ体制での、ランチの充実やメニューの見直しで満足度を高め、客単価の向上を推進 |
| | 国内卸売事業の収益拡大 | △ | 国内におけるコロナ禍の状況次第 |
| | 海外輸出事業の収益拡大 | △ | 海外（特に、台湾・香港市場）におけるコロナ禍の状況次第 |
| | 加工事業による収益貢献 | ◎ | 受託事業を開始。損益改善に一定の貢献を見込む。 |
| | 店舗事業のITを活用しての効率化 | ○ | 前期に引き続き、推進 |
| | 陸上養殖のアタラナイ牡蠣のローンチ | △ | 順調に実証実験が進み、年末お披露目予定 |

3. 2022年3月期 業績見通しについて



通期業績の見通しについて

現時点では通期業績の合理的な見積りが困難なため、2022年3月期の連結業績予想は「未定」とし、今後見通しが立った時点で速やかに公表させていただきます。

| (百万円) | 2021年3月期 通期実績 | 2022年3月期 連結業績予想 | 前年同期比 (%) |
|-------|------------------|--------------------|--------------|
| 売上高 | 2,338 | 未定 | - |
| 営業利益 | ▲359 | | - |
| 経常利益 | ▲367 | | - |
| 当期純利益 | ▲641 | | - |

※新型コロナウイルスの影響の見通しが立たず、現時点での業績予想は「未定」とさせていただきます。



General Oyster

本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。